

世界かんがい施設遺産

びぜんきょようすいろ

備前渠用水路

[埼玉県・本庄市 他]

■天水や湧水などに依存した不安定な米作りを強いられてきた地域の農業生産性を向上するため、幕府の命を受けた代官頭伊那備前守忠次により、一年間という短期間で幹線延長約23kmの用水路の開削を1604年に完成。

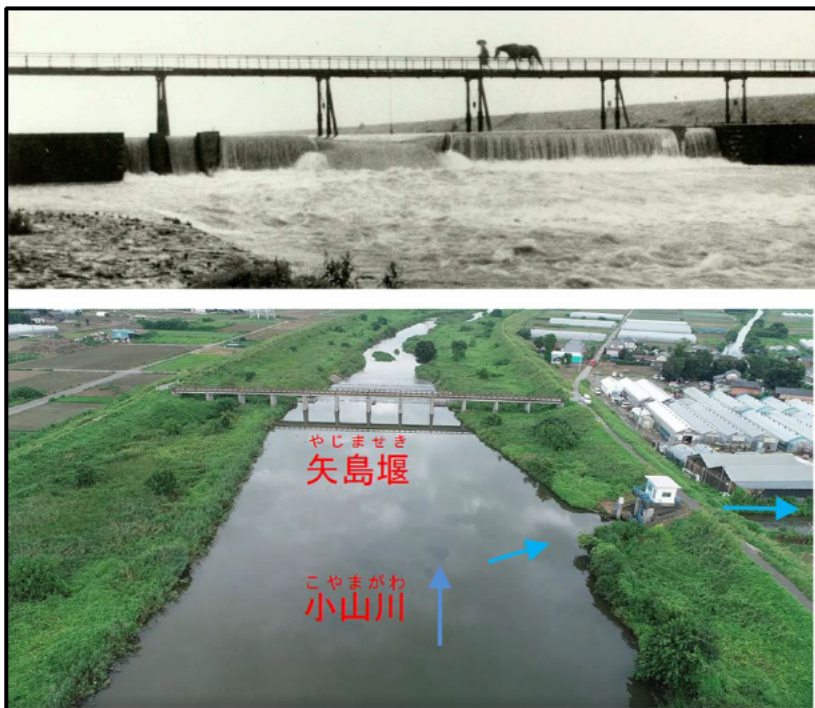
■用水路には河道の一部を利用しながら流水を貯留する溜井方式の堰が設けられ、本線並びに支線用水路へ配水するなどの「関東流（伊那流）」と呼ばれる水利技術を活用。

■現在でも開削当時の面影を残す素掘水路の区間が多く、当時の姿を今に残す貴重な用水路。現代には自然石を用いて整備された親水護岸を利用した灯籠流しや、小学校の副読本で用水路の歴史が紹介されるなど、貴重な地域資源として存在感を有す。

Bizenkyo Irrigation System



備前堀鳥瞰図（1831年）



溜井方式の矢島堰（上段1951年、下段2019年）



開削時の面影を今に伝える素掘り水路区間

問い合わせ先 備前渠用水路土地改良区 TEL. 048-567-3115